44 テーマ別 紛らわしい語の識別

出題傾向 ● 紛らわしい語を識別する問題では、よく出題される語がある。パターンと見分け方を繰り返し学習して覚えておこう。

標準問題

1 次の文の――線「貴重な」と品詞が異なるものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈富山〉

▪家が貧しかった彼は、読書のための貴重な明かりが確保できることもあって、旅籠屋をしていた親友・代吉の家に行っては、片時も本を離さずに勉強をした。

ア いろんなやり方を試す。　イ 元気な声で返事をする。
ウ にぎやかな通りを歩く。　エ 緩やかな放物線を描く。

□

アドバイス ――線の言葉は、全て「―な」という形で体言を修飾している。このような単語には、連体詞と、形容動詞の連体形がある。形容動詞は活用し、連体詞は活用しないという違いに注目して、それぞれの品詞を特定しよう。

2 次の文の――線「裏返し」と品詞が同じものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈福岡〉

▪彼らにとって「故郷」に対する思いは、家族や故郷などから切り離された喪失感の裏返しであり、それを埋め合わせるものであったと言えよう。

ア 力試しに問題を解いてみた。
イ 使った机を元の位置に戻し下校した。
ウ もしもし、田中さんですか。
エ 少しお待ちくださいと言われた。

□

アドバイス 活用の有無や文中での働きを手がかりに、それぞれの語の品詞を特定しよう。動詞の連用形と、動詞の連用形が名詞になったものとの違いに注意する。

3 次の各文の――線の品詞名として適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。〈愛媛〉

① 多様な広がりの豊かさと清廉な慎ましさ。
② もっと豊かに場を作り上げたい、という強い願いが込められた言葉です。

ア 名詞　イ 副詞　ウ 連体詞　エ 感動詞
オ 動詞　カ 形容詞　キ 形容動詞

① □　② □

アドバイス 「豊かさ」は「豊かだ」がもとになって派生した言葉で、形は似ているが品詞が異なる。文の中での働きから、品詞を特定する。

4 次の文の――線から形容詞を一つ選び、記号で答えなさい。〈島根〉

「ええ、ぼく、いかないよ。こんなに雨が降ってきたらだれも集まらないのに決まっているから」
「そうか。やめるのはいいが、信夫はいったい、みんなとどんな約束をしたんだね」
貞行はじっと信夫をみつめた。
「約束したことはしたけれど、行かなくてもいいんです。おばけがいるかどうかなんて、つまらないから」
こんな雨の中を出て行かなければならないほど、大事なことではないと信夫は考えた。

〈三浦綾子「塩狩峠」より〉

□

アドバイス 「ない」の識別は最もよく出る問題の一つ。「ない」には、形容詞・補助形容詞の他に、助動詞「ない」や「みっともない」など形容詞の一部であるものがある。形容詞・補助形容詞の「ない」は自立語なので、「ない」の直前で文節が分かれる。文節の切れ目がわからないときは、「ない」の前に「は」などの助詞を入れて、文意が通れば形容詞。

5 次の文の――線の語の品詞名と、――線の語と同じ品詞のものを、それぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。〈京都〉

① カメラがまだなかったとき、*フェルメールはある一瞬の時間を止めて、それを*キャンバスの上に写し取ろうとした。

（注）フェルメール＝オランダの画家。　キャンバス＝絵を描く画布。

〔品詞名〕ア 連体詞　イ 助動詞　ウ 副詞

〔同じ品詞のもの〕

ア 廊下の奥にある部屋へ向かう。

イ ある日の昼下がりのことだった。

ウ すべての責任は私にある。

エ 「万葉集」は現存する日本最古の歌集である。

品詞名［　］　同じ品詞のもの［　］

② 聞くところによると、科学の専門家でも、自分の専門を少しでも離れた研究開発については、素人（しろうと）と同じように祈っているというのが、どうやら最近の実情らしい。

〔品詞名〕ア 形容詞　イ 形容動詞　ウ 助動詞　エ 助詞

〔同じ品詞のもの〕

ア 桜の花びらが風に舞っている光景は、いつ見てもすばらしい。

イ 小さな動物たちがじゃれ合っている姿は、実に愛らしい。

ウ こんな所にまで本を持ってくるなんて、いかにも君らしい。

エ 彼女の話によれば、図書館で彼女と出会ったのは彼らしい。

品詞名［　］　同じ品詞のもの［　］

アドバイス
「ある」「らしい」もよく出る。①「ある」には動詞、補助動詞、連体詞がある。活用の有無や、文の中での働きを確かめて、品詞を特定する。②「らしい」は助動詞の「らしい」と、形容詞を作る接尾語の「らしい」がある。また、「めずらしい」など、形容詞の一部である場合もある。

6 次の文の――線「の」と同じ意味・用法のものをそれぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① おそろしいのは、それが一見したところ客観的で科学的にみえてしまうところにあるのです。〈鳥取〉

ア 弟の書いた作文が入賞した。

イ 昨日はどこへ行っていたの。

ウ 彼女は泳ぐのも得意である。

エ 冬の夜空はすみきっている。

［　］

② 人影のないその駅から、一人だけ乗客があった。〈三重〉

ア みんなで歌を歌うのは楽しい。

イ 雨の降る日に本を読む。

ウ 羊のような形をした雲が浮かぶ。

エ クッキーの作り方を習う。

［　］

アドバイス
見分け方　❶「の＋用言」の形／「……が」と言い換えられる…主語を示す。
❷「体言＋の＋体言」の形…連体修飾語を示す。
❸「の＋助詞」の形
「こと・……のもの」と言い換えられる…体言の代用を示す。

7 次の文の――線「て」のうち、意味・用法の同じものの組み合わせとして適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。〈神奈川〉

▪古い資料①で町の歴史を調べようと思い、図書館へ自転車②で出かけたが、適切な資料がなかなか見つからないので③、お茶でも④飲んで気分転換をしようと思った。

ア ①と②　イ ①と③　ウ ②と③　エ ②と④

［　］

アドバイス
一字の助詞は、他の語の一部と紛（まぎ）らわしい。
――線の前後を単語に区切ってみて、「て」が一語なのか、あるいは語の一部なのかを確かめる。

8 次の文の――線の助動詞と同じ意味のものをそれぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 誰でも少なからず先入観に支配されている。〈福島〉

ア 昔の友人がなつかしく思われて、手紙を書いた。
イ テニス部の先輩に憧れて、入部を決めた。
ウ しっかりした後輩だと言われて、うれしくなる。
エ 先生方も出席されて、楽しい祝賀会になった。
オ 山頂から美しい景色が見られて、大満足だ。

② 日常生活のなかに求められる「変化」の妙味は「旅」に尽きよう。〈滋賀〉

ア 太郎さん、明日は一緒にテニスをしよう。
イ 必ずやこの理想が実現するときが来よう。
ウ ついに希望がかなうとはまるで夢のよう。
エ やっと宿題が終わったのですぐに寝よう。

アドバイス
――線の言葉が同じでも、全て同じ単語とは限らない。必要に応じて文節・単語に区切り、品詞を確かめよう。複数の意味をもつ助動詞は、文脈に沿って意味を判断しなければならない。①の「れ」は助動詞「れる」で、「受け身」「可能」「自発」「尊敬」の四つの意味がある。②の「よう」は、「推量」「意志」「勧誘」の三つの意味がある。各選択肢がどの意味で使われているかを確認する。

9 次の文の――線の助詞と同じ意味・用法のものをそれぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① ひとびとが自分のすぐわきをすれちがっていく。足早に追いこしていくひと、バス停で時刻を見ているひと、携帯電話片手に、話しながら歩いているひと。〈静岡〉

ア 事実を知りながら知らないふりをする。
イ 残念ながら今日は雨が降っている。
ウ 昔ながらの風景が保たれている。
エ 音楽を聞きながら作業をする。

② 組織が定めた規則（ルール）を守りさえすれば、自らの行動を正当化できると思い込んでしまうこともあります。〈宮崎〉

ア 元気でさえいてくれればいい。
イ 初心者でさえたやすくできる。
ウ 風ばかりか雨さえ降り出した。
エ テレビの音さえ気にならない。

③ 生きていくことには、嬉しいこと、楽しいことばかりがあるのではありません。〈福島〉

ア 腕もちぎれんばかりに旗を振った。
イ ここぞとばかりに相手チームを攻め立てる。
ウ 彼はいつも自分のことばかり話す。
エ 買ったばかりの自転車で出かける。
オ 手を貸したばかりにかえって混乱した。

アドバイス
①「ながら」は「同時（……ながら）」「確定の逆接（……てあるが・……しているのに）」の他に、「……ままで」という意味もある。
②「さえ」は「類推（……でさえ）」「限定（……だけ）」「添加（……まで）」などの意味がある。
③「ばかり」は「限定（……だけ）」「程度（……くらい）」「動作の直後（……してすぐ）」などの意味がある。

10 次の文の――線の語と同じ意味・用法のものをそれぞれ後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 自然は、われわれがとらえたと思っているものより、常により広く、より深い。〈香川〉

ア 窓を開けると山々が見える。
イ これが最後と別れを惜しむ。
ウ バスはゆっくりと岬を走る。
エ すると突然その扉が開いた。

② 哲学史に名をとどめる。
ア 彼は急に走り出した。
イ 皆で体育館に整列する。
ウ 夜空の星のように輝く。
エ 友達と遊びに行く。
〈山口〉 □

③ 科学研究の成果・業績とは新規性、――誰もこれまで知らなかった新しい発見を論文報告すること――、だけに価値が見いだされることになるからだ。
〈宮崎〉
ア 釣った魚を食べたのは、あの猫だ。
イ あの地域は、自然がとても豊かだ。
ウ 明日の体育大会は、延期になったそうだ。
エ 父を乗せた飛行機が、さきほど飛んだ。
□

④ それらの写真には名前すらすぐに思い出せないような遠い昔に出会った人々の顔などがある。
〈新潟〉
ア こんなに大きな魚は見たことがない。
イ 楽器の演奏はまだそれほどうまくない。
ウ 彼は約束の時間になっても来ない。
エ 妹の寝顔はまだあどけない。
□

アドバイス
①・②…助詞か、別の品詞の一部か、助詞ならばどのような用法かを確認する。
③…「だ」は断定の助動詞と過去の助動詞「た」が濁ったものがある。また、形容動詞の活用語尾や、他の助動詞の一部である場合もある。
④…「ない」の識別は頻出。形容詞・補助形容詞、形容詞の一部、助動詞のどれに当たるか見分けよう。
見分け方 ❶形容詞「ない」…「ない」の前に「は」などの助詞を入れられる。
❷助動詞「ない」…「ぬ」に言い換えられる。

11 次の各組の――線の語の中から、他と意味・用法が異なるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。
〈①②三重・③宮城・④鳥取〉

①
ア 工事中だったが、ついに完成した。
イ 今日はいい天気だが、風は冷たい。
ウ 電話をかけたが、だれも出なかった。
エ 野球の観戦が、私の楽しみの一つだ。
□

②
ア 色とりどりの花がきれいだ。
イ 明日は学校の創立記念日だ。
ウ 僕が読みたいのはこの本だ。
エ 壁に掛けてある絵は妹のだ。
□

③
ア 強い風に飛ばされそうだ。
イ 大会で優勝したそうだ。
ウ 大きな花が咲きそうだ。
エ 明日は晴れそうだ。
□

④
ア 下りエスカレーターに足を踏み入れるなり、ホームに電車が滑り込んでくるのが見えた。
イ 自然と道がひらく格好になり、ダイアナはひといきに駆け下りた。
ウ ダイアナは恥ずかしくなって言葉が出てこなくなる。
エ そんなダイアナみたいな存在の本になればいいと思って。
□

アドバイス
①…「が」の助詞の種類を確かめる。助詞「が」には格助詞と接続助詞がある。
②…「だ」の品詞を確かめる。助動詞の他に、形容動詞の終止形の活用語尾の場合もあるので、前の部分と合わせて検討する。
③…直前の語の活用形に注目して「そうだ」の意味を確かめる。
④…品詞を確かめる。活用すれば動詞で活用しなければ助詞である。